

# 北海道師範塾 塾頭通信

## 「教師の道」

第703号 平成26年3月13日

### 国際バカロレア

札幌市では、2015年（平成27年）度開校予定の中高一貫校「札幌開成中等教育学校」について、道内で初めての「国際バカロレア（IB）」という教育プログラムの導入を目指し準備を進めています（平成25年9月20日付北海道新聞から）。

「国際バカロレア」というのは、グローバル化に対応出来る人材育成を目指した教育プログラムの事で、ジュネーブに本部がある国際バカロレア機構（IBO）が運営しています。この「国際バカロレア」は、世界の約2千の大学で大学入学資格として認められており、北海道新聞の記事によると、日本国内ではインターナショナルスクールや私立学校を中心に26校で導入されているそうです。

また、「国際バカロレア」には、

- ・3歳～12歳対象の「プライマリー・イヤーズ・プログラム」
- ・11歳～16歳（中学1年～高校1年）対象の「ミドル・イヤーズ・プログラム」
- ・16歳～19歳（高校2・3年）対象の「ディプロマ・プログラム」

の3つのプログラムがあり、最後の「ディプロマ・プログラム」では、数学・物理・芸術等の授業が英語で行われる事になっています。

「札幌開成中等教育学校」では、2017年度迄に「ミドル・イヤーズ・プログラム」を、2019年度迄に「ディプロマ・プログラム」をそれぞれ導入する方針との事ですが、これが構想通り実現すれば、公立の一般校としては全国初となります。

「国際バカロレア」は世界で急速に広がっている様ですが、日本ではなかなか普及は進んでいません。その背景には、

- ・英語での指導が原則である為に、指導者の確保が難しい事
- ・国内の大学では、別に試験が課される事も有り、「大学入学資格」とはいい難しい事

等の事情があるものと思われます。

こうした中、「札幌開成中等教育学校」で「国際バカロレア」が導入される事になれば、公立の一般校へ与える影響は非常に大きいものと思われます。

札幌市教育委員会が「国際バカロレア」の導入に前向きなのは、大学受験を前提

にした教育では国際社会で活躍出来る様なグローバル化に対応した人材が育ち難いという危機感が有るからだろうと思います。こうした危機感は文部科学省にも当然あって、次年度から、先進的な高校を「スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）」に指定して支援する事としています。

文部科学省では、全国で100校を指定する事としている様ですが、指定を受けた学校では、英語を中心とした外国語力に加え、課題を見つけて解決する能力や歴史・文化等の教養も重視して教える事になります（平成25年8月15日付朝日新聞から）。

この「スーパー・グローバル・ハイスクール」は、文部科学省が各学校から提出されたカリキュラム案を審査し指定するとしています。全国的には、進学校とされている学校が多く申請するものと思われるが、「国際バカロレア」を既に取り入れている学校は当然申請する事になるでしょう。是非、北海道からも積極的に手を上げる学校が出て来て欲しいものです。

なお、「札幌開成中等教育学校」は、こうした文部科学省の動きと連動したものではありませんようですが、時代の要請に積極的に応えようとする姿勢は評価すべきだと思います。

「札幌開成中等教育学校」に「国際バカロレア」が導入されれば私立の中高一貫校にとっては極めて大きな脅威となるでしょうし、学校間の競争も激しくなる事は避けられませんが、その事をネガティブに捉えるのではなく、むしろ、「国際バカロレア」の導入によって道内の教育が活性化する事を期待すべきではないでしょうか。

（塾頭：吉田 洋一）